

＜リモニカ放飼後の殺虫剤について＞ 下記薬剤を推奨します。ご利用の作物で登録のあるものを利用してください。

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤 (※2. をご参照ください)	若干の影響あり(放飼数週間後、カブリダニの数が葉当り1頭を超えてから使用する。連用しない)
アザミウマ類	マイコタール、ボタニガード水和剤、プレオ、マッチ、ベストガード、スタークル/アルバリン、プリロソフ	バリアード、アクタラ、ダントツ、アドマイヤー、カウンター
コナジラミ類	マイコタール、ボタニガード水和剤、スタークル/アルバリン、ベストガード、プリロソフ/ベリマーク	バリアード
アブラムシ類	チェス、ウララ、スタークル/アルバリン、ベストガード、プリロソフ/ベリマーク	バリアード
ハダニ類	マイトコーネ、ダニサラバ、スターマイト、ニツソラン	気門封鎖系薬剤(粘着くんなど:スポット散布)
ホコリダニ類	スターマイト	
ハモグリバエ類	プレバゾン、プレオ、マッチ、トリガード	カウンター
ヨトウ類 タバコガ類	プレバゾン、プレオ、マッチ、フェニックス、ノーモルト、ファルコン、マトリック、ロムダン、BT剤	カウンター
カイガラムシ類	スタークル/アルバリン	アプロード

※1. 上記の薬剤以外は天敵に影響がある可能性があります。特にアディオン、アーデント、アグロスリン、アザミバスター、ロディーなどの合成ピレスロイド剤や有機リン剤、カーバメート剤、ハチハチ、ピラニカ、サンマイル、ダニロン、アプロードエースなどは天敵に大きく影響するので使用できません。また、天敵の放飼前にこれらを散布していた場合はリモニカスカブリダニ(以下リモニカ)がうまく定着しないことがあります。

※2. 果菜類のアザミウマ防除でリモニカを効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。

＜リモニカ放飼後の殺菌剤について＞

- モレスタン、ジマンダイセン、ビスダイセン、ペンコゼブ、マナーヅM、テーク、リドミルMZ、カーゼートPZ、フェスティバルM、クリーンサポート、ポリオキシ、ポリベリン、ダイアメリットDF などの利用は避けることを薦めます。
- 硫黄のくん煙は1回当り2～3時間以内で行なってください。

- リモニカは、トマトではうまく定着できないので、使用は控えてください。
- ピーマンなどでは、餌となる害虫が少ないときに花数が減るとリモニカが減少することがあります。花数が増えれば花粉を餌にして再び増えてきますが、できるだけ花数を維持するように管理してください。
- 摘葉で取り除いた葉などにリモニカが残っていることがありますが、病害虫管理の面からもハウス外に捨てて構いません。リモニカはすぐに増殖してくるので問題ありません。但し、放飼後 2週間は摘葉しないでください。
- 葉面散布剤の使用は可能ですが、機能性展着剤(スカッシュ、まくぴか、ミックスパワー、ニーズ、ブレイクスルーなど)はなるべく使用しないことを薦めます。

リモニカと相性の良い微生物農薬～コナジラミ類、アザミウマ類に感染するカビの仲間～



「マイコタール」・「ボタニガード水和剤」

- リモニカにはほとんど影響が無く、施設栽培の野菜類で使用可能
(農薬散布回数にカウントされない)
- プレオ、マッチ、ネオニコチノイド系薬剤などと混用すると効果的



リモニカと併用できるハダニ類の天敵

「スパイカルEX」・「スパイカルプラス」

- リモニカと同じく定着しながらハダニを防除
- 施設栽培の野菜類などで使用可能
- 放飼後の管理(使用薬剤など)はリモニカに準じる



リモニカの放飼における注意点

- ・圃場全体に均一になるように、なるべく多くの株に放飼してください。
- ・放飼途中で足りなくならないよう注意してください。
- ・天敵製剤は生きているため、到着後速やかに放飼してください。

放飼方法

1. 放飼前

リモニカは容器内に偏在しています。放飼前に容器を10分程横向きに静置します。放飼直前にゆっくり10回転させて、リモニカが均一になるようにしてから放飼します。(→右図)

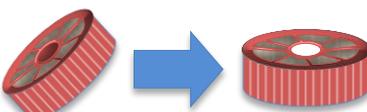


2. 放飼準備

- i) 減り具合をチェックできるようにマジック等でボトル側面に4等分程度の目盛り線を書きます。
- ii) フタをはずして、中央部分を親指で押しくりぬき、穴を開け、再度フタをします。
- iii) このフタの穴から、圃場に放飼します。



ボトルの側面に
線を引きます。



フタをはずして、中央の円い部分を親指で押しくりぬき、再度フタをします。

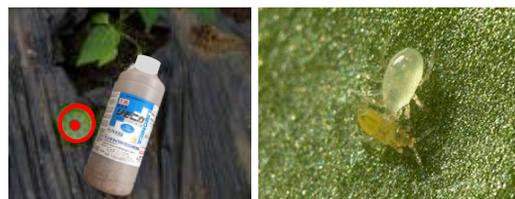


3. 放飼方法

- ☑ ボトルを斜め約30度に傾け、ボトルの先端部を振りながら、作物上に放飼します。
- ☑ 圃場全体に均一になるように、なるべく多くの株に放飼してください。
- ☑ 生長点や葉が平らになっている部分に放飼してください。その際にふすま等が地面に落ちますが、リモニカが作物上に登ってくるため定着に問題はありません。
- ☑ 10a当り2~4本分を放飼してください。
- ☑ 最初は少なめに、余ったら害虫の発生が多い場所に重点的に振ってください。

4. 放飼後

- ☑ 放飼後は、蓋とボトルを株元に横向きに静置してください。残ったカブリダニが歩いて外に出て行きます。



5. 上手な使い方



リモニカは、アザミウマの若齢幼虫やコナジラミの卵と若齢幼虫を捕食しますが、これらの成虫は食べられません。そこで、体系防除のおススメ！ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマが発生する圃場では、必ず粘着板『ホリバーブルー』(左写真)を使いましょう。各ライフステージできっちり防除し、次世代の密度を抑制しましょう！

天敵農薬に関する情報を定期的にお届けします。「IPM通信」配信ご希望の旨と、ご住所、ご氏名、栽培作物、メールアドレス(携帯不可)を下記メールアドレスへお知らせください。 tenteki@arysta.com